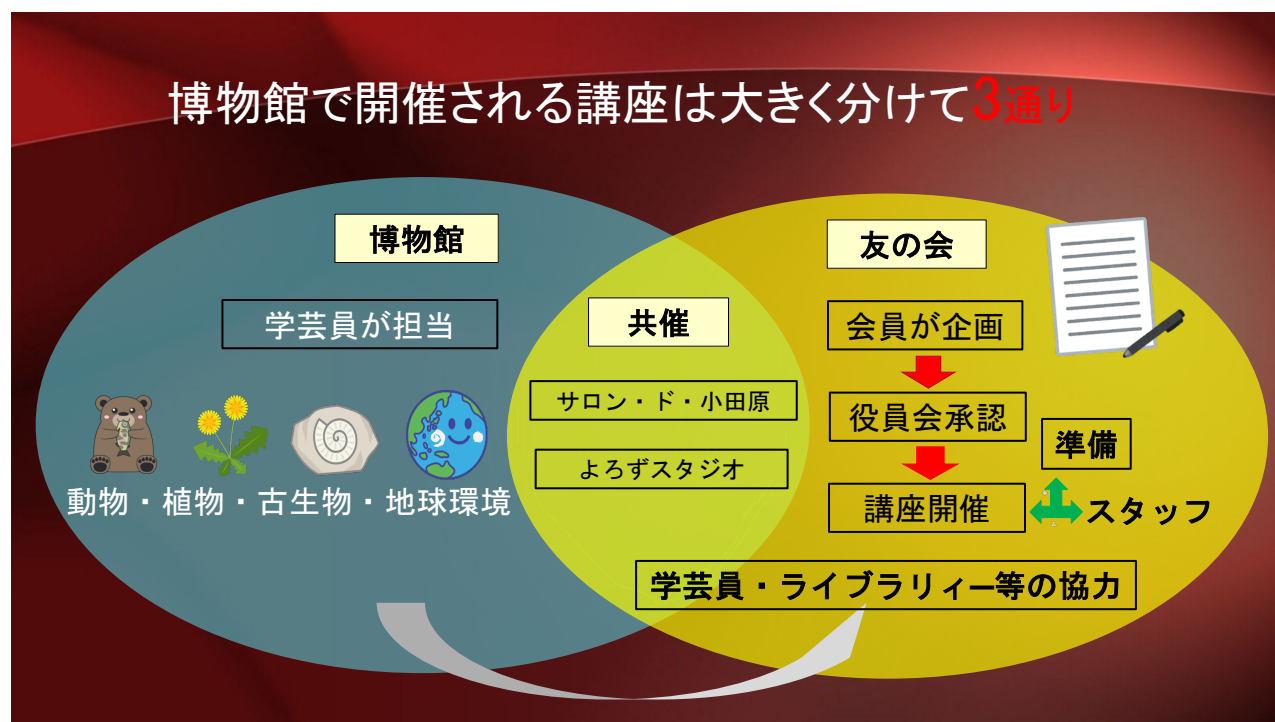


友の会通信

100
2018.06

Vol.22 No.1 通巻 100 号 2018 年 6 月 15 日発行(年 4 回発行)



博物館で開催される講座は、大きく分けて3通り！

- 1 博物館講座は、学芸員がそれぞれの専門分野の講座を行う
- 2 友の会講座は、友の会会員が企画開催する講座
(友の会役員会に企画提出⇒役員会承認⇒博物館や友の会スタッフの協力を得て開催)
- 3 博物館と友の会が協力して開催する共催講座(「サロン・ド・小田原」や「よろずスタジオ」など)

博物館・講師・参加者・スタッフの協力で友の会講座が成り立ちます。

今後とも友の会活動に応援をお願いいたします。(PPT 作成：友の会 矢野倫子)

<友の会講座の位置づけ(2018年4月22日友の会総会イベントでのPPT資料より)>

目次

ご挨拶	02
グループ別報告	03
—広報部より	
—事務部より	
—企画部より(各グループからの活動報告)	
行事案内	10

皆さまの参加をお待ちしています

会長 鈴木智明

また新たな年度が始まりました。今年度もどうぞよろしくお願いします。

さて、昨年度は念願の20周年記念誌の発行が出来ました。

発行の趣旨は2つあります。

一つは20年続いた友の会について、今までの活動を振り返るとともに、ボランティア組織として安定し継続した友の会組織の在り方を検討するきっかけ作りとすることです。ボランティア組織は、基本やりたいことをやる組織ですが、やはり管理業務や調整業務等が発生します。そのために、例えば、なるべく博物館にご迷惑かけないよう会員管理や発送作業等を効率よく行なう必要があります。また今年度は友の会通信の作成方法を見直しますが、これも今まで記事の取り纏めを行って頂いた方が居なくなった事からの見直しです。

二つ目は、友の会の目的である「博物館を広く活用」の更なる充実の検討のきっかけを作ることです。友の会の特徴は、会員自ら企画することです。今は講座が中心ですが、それ以外もあるのではと思っています。例えば、この友の会通信の作成なども、ここ数年は同じ内容で作成してきましたが、ここで一度内容を見直し、まずは最低限の構成から出発します。今回の通信を見て、『構成は・・・したほうが良い』『・・・といった企画があると面白い』と行った感想を持たれましたら、ぜひ、ご提案いただければ幸いです。

20周年記念誌をお読みいただければお分かりの通り、友の会が発足した当初は多くの方々が自ら企画し、試行錯誤しながら事業を行ってきました。20年間の歴史やその間やってきたことへの思いを伝えることで、新たな企画が誕生することを期待しています。

友の会を通して出来ることは沢山あると思います。友の会を通し日本有数の博物館と関わってみませんか。

皆さまの企画・参加をお待ちしております。



ご挨拶

館長 平田大二

日頃より、生命の星・地球博物館の活動につきまして、ご理解とご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。今年度も、引き続きよろしくお願いいたします。



今年は近年になく寒い冬でしたので、春の到来は遅いかなと思いきや、意外と早く桜も咲き始め、暖かい春となりました。そして、ゴールデンウィークには博物館周辺の山々も新緑がまぶしくなりました。私は時折、朝の通勤時に余裕があれば、運動不足の解消もかねて風祭駅から早川の川沿いを歩いて博物館に向かいます。短い時間ですが、早川の水の流れや周辺の自然を見ながら歩くのは、とても気持ちの良いものです。京都の哲学の道とは比較にもなりません、あれやこれや思索の道となっています。もっとも、風祭駅前の農協で産直野菜売り場を覗くのも楽しみでもあります。早川の水の流れ、周りの木々や草花、川面を飛び交う鳥を眺めていたら、不意にギリシャの哲学者ヘラクレイトスの「万物は流転する」、鴨長明の「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」という言葉が柄にもなく思い浮かびました。早川周辺の風景も、四季折々にかわりますし、年月とともに変わってきました。自然は宇宙が誕生してから、一瞬たりとも止まったことはありません。常に変化してきましたし、これから変化し続けるでしょう。自然は変化するものです。自然史の博物館では、その時々々の自然の証拠を集め、整理して、研究して、残していくことによって、その変化を見ることが出来ます。当博物館は24年目、そして友の会は22年目を迎えました。博物館の存在は不変であると思いますが（最近是不変ではなくなっていることが危惧されます）、活動のあり方は時代の情勢によって変化し続けるでしょう。友の会も存在は不変であっても、活動は変化するでしょう。「変わらないもの（変えてはいけないもの）」と「変わるもの」、それはその時々々の人たちが真剣に考えていくことが大切なのではないのでしょうか。

博物館と友の会の関係についても、これからも一緒に考えて、活動が続けることができればと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

事務局より

【2018年友の会総会報告】

2018年4月22日（日）13:00～14:00／
博物館 SEISA ミュージアムシアター／27名

総会参加者は例年より少なめの「小数精鋭」27名でしたが、無事2017年度の事業報告、2018年度の予定事業とそれに伴う予算案が審議、承認されました。

友の会役員として長い間尽力してくださった浅野みえさん、臼井英夫さん、尾崎和さん、金子直子さん、佐藤昭男さん、下田準一さんが退任されました。新役員は植物グループからの佐々木シゲ子さんです。

また、2018年度博物館友の会担当職員は佐藤企画普及課長、山下学芸員、松本学芸員、本杉企画普及課職員です。4月にこられた田邊企画情報部長とともに、ご紹介させていただきました。

友の会では昨年度、会員対象に今後の友の会のあり方についてアンケートを実施しました。役員のなり手が少ない中で会員の要望に沿った事業展開をするためにインターネットを駆使して省力化を図るなど、鈴木会長のもと模索をしているところです。

今年度も楽しく興味深い多くの友の会行事を予定しています。皆さまの積極的なご参加とご協力をお願いいたします。（田畑節子）

【2018年友の会総会イベント報告】

第1部「オスとは何か？メスとは何か？昆虫の交尾器から見える世界」上村佳孝慶応大学准教授
第2部昆虫談義 上村佳孝氏 × 荏部治紀当館昆虫担当学芸員

2018年4月22日（日）14:30～16:15／
博物館 SEISA ミュージアムシアター／72名

トリカヘチャタテの研究でイグ・ノーベル賞を共同受賞された上村佳孝先生のお話をお聞きしました。友の会会員だけでなく多くの方が聴講にいられていました。

イグ・ノーベル賞の賞金が一兆ジンバブエドル＝2.5円とか、また授賞式用の30秒のビデオレタ

ーで会場を沸かせてくれました。でも研究内容は生物の根源に迫るものでした。

トリカヘチャタテはメスに男性器状の突起があり、学生に話をすると「実はそれはオスなのでは」と言われたとのこと。では生物学におけるオスとメスの定義とは？何でしょう。

小さな配偶子（次世代を作る為の細胞）を作るのがオス、大きな配偶子を作るのがメスだそうです。オスは生涯、数千個から一億個の精子で多くの生産が可能で、多くのメスに精子を渡すことにより多くの子孫を残したい。メスは生涯、500個位の卵で生産数に限りがあり、オス一匹からの精子で十分。これによりオスは積極的、メスは消極的になり、性的対立が起きるとの事。近頃問題になっている、ME・TOO運動もこんな所が根本的な原因なのかなと飛躍的な事を思ったりしました。

トリカヘチャタテのメスは男性器状突起からオスから精子だけでなく栄養もプレゼントされる。栄養状態が悪い環境にすむ生物にとって、メスにも大いに利点があり、性的対立が少なくなり、子孫の繁栄にも役立つ。オスとメスの進化のメカニズムが小さな生物から見えてくる気がしました。また研究の為のさまざまな御努力に頭の下がる思いでした。

第2部、（15時45分から）上村先生と荏部治紀先生の対談が有り、トンボの特異な交尾の仕方については古い昆虫の生態を残しているとか、今問題になっているムネアカハラビロカマキリの問題点についてのお話等が有りました。荏部先生のお話の中で「新種を見つけるのは今後大変だが、生態や行動等の切り口での研究はまだまだ新分野がある。」とのお話が心に残りました。

（近田あきこ）



荏部学芸員との昆虫談義

情報クリップ

友の会会員数：386名（5月1日現在）

正会員：385名／賛助会員：1名

●平成30年4月1日付 博物館人事異動

＜管理課＞

採用：工藤 麻衣

藤森 京子

転出：寺田 真織

退職：工藤 美和子

＜企画情報部＞

転入：企画情報部長 田邊 勉

転出：企画情報部長 秋澤 潔史

＜企画普及課＞

採用：中村 友美子

転出：城所 由佳

＜情報資料課＞

復職：大坪 奏

退職：林 宏美

＜学習指導員＞

採用：市川 美紀子

泉 在道

杉崎 均

退職：小宮 孝俊

加藤 淑和

中村 俊文

●2018年度 友の会担当職員のご紹介

企画普及課長：佐藤 武宏

学芸部：山下 浩之

松本 涼子

企画普及課：本杉 弥生（友の会総合窓口）

＜問合せ先＞

神奈川県立 生命の星・地球博物館

企画情報部企画普及課

TEL：0465-21-1515

FAX：0465-23-8846

博物館NOW

「博物館1年生」

企画情報部長 田邊 勉

今年4月に、環境農政局横浜川崎地区農政事務所から参りました田邊です。

私自身は、これまでずっと知事部局（皆さまが普通「県」と考えておられる組織です。）で、許認可、補助金、予算決算、人事などを担当しており、教育委員会はもとより博物館の勤務は初めてです。

そうしたことから、当館とは仕事上の関わりは無いと思っていたところ、年報等を見る中で、先年の大涌谷の噴火、あるいは昨年の「ヒアリ」問題の際に、当館が適時適切に正しい知識の普及啓発に努めていたことを知りました。特に「ヒアリ」に関しては、農政事務所でも、農業者、県民への注意喚起が求められるなかで、実際にどのような知識を伝えれば良いのかが悩みでしたので、当時、こうした取組を知り情報を得ていたらどれほど助かったかと思いますとともに、博物館による情報発信の大切さを痛感したところです。

当館では、職員による講座等と合わせて、友の会の皆さまが企画・開催される様々な講座、観察会に、毎年、沢山の方々が参加しています。

私も4・5月のサロン・ド・小田原、そして総会時のイベント講演を伺いましたが、新たな発見を巡る内容は、門外漢の私にも「臨場感」あふれる興味深い時間を与えてくれ、こうした活動こそが「見せる」博物館を「魅せる」博物館にしていける大切な取組と感じました。

個人的には、もともと佛像や歴史（最近では、ここ200年程の我が国の近現代史）に関心があり、自然科学分野はわからないことだらけですが、当館の魅力も多くの方に知っていただけるよう、素人なりに微力を尽くしたいと考えています。

さて、毎年春になりますとCMで流れる「1年生になった〜ら」という童謡を耳にされた方も多いと思います。私も博物館1年生として、早期に100人の会員の皆さまとお話をするを目標として、友の会行事への顔出しをしていきたいと考えております。

若くない1年生ですが、よろしくお願いいたします。

活動報告（地学グループ）

◆友の会地学G：『活断層が作る地形と調査・研究からわかること』

2018年1月24日（水）／場所：生命の星・地球博物館西側講義室／参加者：34名／話題提供：道家 涼介 氏（温泉地学研究所研究員）

今回の話題は、内陸の活断層による地震の発生と地形との関連でした。活断層とは、①12～13万年前以降に活動、②地形にズレが在る、③繰り返しの活動などであり、その活動により形成された地形の研究に加えてトレンチ、および露頭調査が必要とのことでした。地形の形成については個人的に以前から興味があり、本話題に出てきた場所を訪ねたこともあったなど有意義な話題でした。また日本列島の活断層等がプレートの動きによることを改めて考えさせられました。（今村 明）



道家涼介 氏による地話懇話会風景



会場風景

◆友の会地学G：『三浦半島中部横断の地層・地質観察会』

2018年2月12日（月・祝）／場所：三浦半島横須賀市～三浦市付近／参加者：30名／講師：笠間友博 学芸員

思わぬ強風の中、最初に笠間学芸員から三浦縦貫道の延伸工事露頭に向かう途中の道路わきに出ている三色旗軽石層をチェック。工事露頭では、北露頭・北・東面の三崎砂礫層や宮田層など、またTP/SPなどのパミス層、スコリア層ばかりでなく、谷地形の痕跡や礫の由来、そして海岸線やサンドパイプなどの生痕化石や不整合、各層の年代など様々なことを教えて頂いた。実際その大露頭はすごいものでした。その後荒崎に移動し、猛烈な風と波しぶきの中、三崎層の露頭から落ちた石のホットメルトの剥ぎ取りを体験することができた。笠間学芸員、スタッフの皆さん、貴重な体験ありがとうございました。（黒田洋一）

＜スタッフからの一言＞

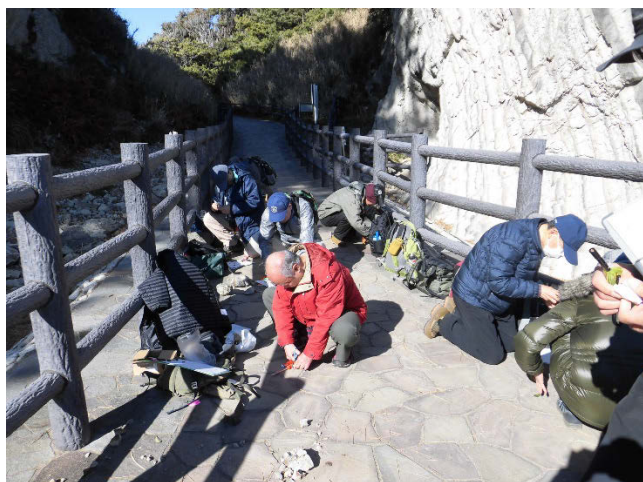
当行事には対象数を超える多数の応募があり、抽選をさせていただきました。落選の方にはお詫びを申し上げます。



北露頭西・北・東面に広がる工事中の大露頭



寒風の中、笠間学芸員の解説に聞き入る参加者



ホットメルトによる剥ぎとり体験風景



ホットメルトで作成中の『堆積物剥ぎとり標本』



名・実通りに荒れた荒崎海岸の波しぶき

◆友の会地学G：話題：『南から来た伊豆半島の歴史を紐解く』

2018年3月28日（水）／場所：生命の星・地球博物館西側講義室／参加者：34名／話題提供者：鈴木雄介氏（伊豆ジオパーク推進協議会）

話題は大きく分けると2つで『南から来た伊豆半島の歴史を紐解く』と「ジオパーク」の事だったように思います。最初の地学的な話では時間を追って楡形地塊から伊豆地塊の衝突に伴う激しい地形の変化をアニメなどで解説、そして将来起こり得る衝突と地形の変化の予測も。丹那断層のエピソードなど盛り沢山を面白く聴くことができました。後半は鈴木氏ならではのジオパークの話でした。

ジオパークは地学的面白さだけではなく地形・地質を基盤に成り立つ生態系や生物の多様性、その恩恵や影響を受けながらの人々の生活や歴史、文化、生業が継承されてきたことの意味に思いを馳せる中で、ジオパークを面白くするには地域の人々の自発的活動が大切だとのことでした。そのすべてが観光に活かされ地域振興にも繋がる事ではないかと思えます。

地域防災活動に関わる一人として、いつか二宮の吾妻山展望台に面白いパンフレットだけでも置きたい。地域振興や防災啓発の一助になるに違いないと思える、とても触発されたお話でした。（杉本和子）



鈴木祐介氏による地話懇話会風景



会場風景

活動報告（よろずスタジオ）

「チョウの体を調べよう」

実施日：2018年2月18日

参加者：大人57名、子供67名 計124名

協力：渡辺学芸員

スタッフ：8人

初めて、お手伝いをさせていただきました。始まる時には、勝手が分からず、みなさんの行っているのを見ているだけでしたが、元来、子どもたちと接するのが大好きなので、すぐに中に入ることができました。

私が重点的に行なったのは、「チョウの形」ということで、チョウの翅の形がどんな意味があるのだろうかということについてのアプローチです。そのまま質問してはわからないと思ったので、選択肢から考えてもらいました。答えの意外性に、子どもたちも大人もみんな驚いてもらうことができました。問題のたのしさと、段取りにより、小さい子でも、けっこう理解できるものだと思います。

それ以外の「チョウの鱗粉」や「チョウの翅に水をかけると?」、「チョウの目を見てみよう」においても、子どもたちはその場その場で、意外性・きれいさ・細かさ・形にとっても驚いている様子を見ることができました。昆虫パズルのコーナーは大人気で、大人も本気になって取り組んでいました。

スタッフのみなさんの軽快な動きや、臨機応変な行動、わからないことはすぐにお互いに聞く姿勢があったおかげで、参加者もあきることなく、たのしい時間を過ごすことができたのではないかと思います。それぞれのコーナーの驚き・喜びの様子は、参加者の感想からもよくわかりました。このような取り組みをしていくことにより、多くの方々が、昆虫や自然の不思議さを感じるこ



とができるのだと実感しました。（スタッフ 荒居浩明）

「巻貝の中はらせん階段？」

実施日：2018年4月15日

参加者：大人91名、子供73名 計164名

協力：佐藤学芸員

スタッフ：6人

毎回スタッフ集めに苦勞しつつ、どうにか切り抜けて実施してきた“よろずスタジオ”ですが、この4月から8年目に入りました。

「博物館に来ると週末は何かワークショップやってるよ」という状態にして、博物館を好きになるきっかけにしたいと、相棒と相談し、「初めの一歩」のつもりで実施した企画でした。

続けて来られたのは、学芸員の皆さんや友の会スタッフの協力のお陰です。

現在では博物館主催で、来館者が展示物を見るだけではなく参加できる体験型の催しが、毎週末開催されるようになって、嬉しい限りです。

さて、今回の貝類の企画は、巻き貝のらせん階段構造を知ってもらうもので、実施三回目になり、事前準備もほとんど必要ない完成したプログラムである。来館者は貝の断面で内部構造を実感し、その断面をクレヨンで磨り出して、デザインとしての面白さも味わうようになっています。



（ギンタカハマ貝）

子供も大人も貝の断面を始めてみて感心し、紙に映し出された七色の断面構造も楽しんでくれた



（すり出した断面）

印象に残っています。何組もの来館者にやさしく貝の構造の話をしてくれた佐藤学芸員にお礼申し上げます。

（友の会：赤堀千里）

活動報告（植物グループ）

◆ 植物観察会 「入生田の植物に親しむ」

2018年3月3日（土）／神奈川県小田原市入生田
24名／講師・担当：植物グループ

昨年のシダレザクラが咲き始めた頃に花見を兼ねた散策で一度訪れましたが、今回は観察会でしたので、どんな出会いになるか楽しみにしていました。ところが、樹木名21か所を30分で記入しなさいとの合図に面食らってしまい、結果として1/3もできませんでした。周りを見渡すと他の人たちは次から次へと移動しており近くにいませんでした。前半にとどまっている自分にあせりを感じました。タイムアウト後に正解を頂いて少々ホッとしましたが、ゼロに近い知識だな、と思った瞬間、肩が落ちました。それでもサワラとヒノキ、カゴノキの鹿の子模様については記録することができました。昨年2月の秦野市弘法山春のいぶき、ロゼット観察以降2度目の参加でしたが、昨年退職してからは自然観察に興味を持ち始めました。わかりやすい説明でした。ありがとうございました。（星和夫）

<クイズ 何の樹の冬芽でしょう？>



A 互生、全円、長刀状の冬芽



B 樹皮はまだら模様、互生、冬芽は長く1本
答え A：サカキ B：カゴノキ

◆ 植物観察会 「春の高尾を歩く」

2018年4月24日（火）／小仏城山・日影沢

34名／講師：勝山輝男学芸員／担当：植物グループ

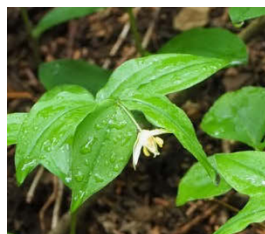
高尾の大垂水峠から小仏城山を經由して日影までを歩きました。沢沿いの道は湿度が高く、しっとりとしていて新緑の中をオオルリの囀りを聞きながら歩く。「良いな 良いな」



新緑の中講師の言葉に耳を傾ける

ホウチャクソウ、チゴユリが見られ、花の時期はもう少し後のワニグチソウも群生している。ホウチャクソウ、チゴユリはイヌサフラン科、ワニグチソウはキジカクシ科と変わったとお聞きする。「へえ！当分は旧ユリ科で良いか」とつぶやく。

周りの方は皆さんどなたも植物に詳しくて何を尋ねても即答で解説して下さい。特にイカリソウの花の構造を教えてくださいました。皆さんの博学に感心しきりです。



可憐なチゴユリ

昼食後、日影沢林道を下る。ここはシダが多く若い葉が印象的だった。

サツキヒナノウスツボやカヤランを見せてもらう。カヤランは図鑑でしか会えないと思っていたので

「わあ 今日の日玉商品！」このコースは初めて歩いたのですが、歩きやすく四季折々何度でも歩きたいと思うお気に入りのコースとなりました。

心配された雨にも合わず、しっかり準備されたリーダーの皆さんのご苦勞に感謝しながら気持ち良く帰宅しました。ありがとうございました。（船木瞳子）



花の作りも魅力的なイカリソウ



エドヒガンの大木に着生したカヤラン

活動報告（地図を楽しもう）

2018年2月11日（日祝）／生命の星・地球博物館実習実験室及び博物館周辺～箱根湯本／講師：新井田秀一学芸員／参加者：大人6名

国土地理院発行の地形図を読み込んで、実際の地形や建物やランドマークと比較してみようという講座です。午前中は「2万5千分の1箱根」を徹底的に読み、地図情報の取得のコツを学びました。午後地形図を携行して屋外に出ました。人気番組「プラタモリ」の入生田・箱根湯本版です。実物と地形図と見比べながら歩きました。山崎発電所の景観、国道1号線の水準点、牛頭天王社、発電所導水管、旧箱根湯本中学、三枚橋と早川の河原の幅の関係、馬車鉄道箱根湯本駅跡、箱根電灯発電所跡、箱根湯本温泉源泉と熊野社などです。こんなに身近な地域なのに参加された皆さんは新発見の連続で、地図を持って歩くことの楽しさを満喫されたようでした。参加者の皆さま、新井田さん、ありがとうございました。（友の会 関口）



山崎発電所導水管の頂上を見る



箱根電灯発電所跡を見る

活動報告（樹木観察基礎講座第1回会）

ハナミズキ（北米）やヤマボウシ（中国）の自生地探訪。～その地における枝の伸び方や、冬芽の構造との関係を探る～

2018年4月28日（土）／横浜市こども植物園／参加者：13名／講師：樹形研究会代表、国立科学博物館名誉研究員 八田洋章氏

今年度は、八田先生のご専門分野の一つであるミズキ属について、これまでの研究成果を研究活動のエピソードも交えて講義していただくことになりました。今回、その1回目の講座報告です。

箱根のヤマボウシの生活サイクルのことから始まり、5年に1度大なりの年があり、また4枚の総苞片には白から濃いピンクまで色と形に変異が多いとのことであった。日本全体でみると本州北部や日本海側で大型になり、ブナ帯下部を中心に分布している。驚いたことに日本のヤマボウシには2系があり、半常緑のヤエヤマヤマボウシが石垣島や西表島にあるとのことだ。さらに中国には常緑のホンコンヤマボウシとヒマラヤマヤマボウシがあると聞きぜひ見たいと思った。最近ホンコンヤマボウシは新築の庭で盛んに植栽されているようだ。目を転じて北米にも落葉の西海岸のセイガンヤマボウシと東海岸のアメリカヤマボウシ（ハナミズキ）があり、1個1個の果実が離れていたり、総苞片が6枚もあって大形で大いに興味をひかれた。ミズキ属は地球全体が暖かかった、第3紀周北極要素の植物群に属し、その共通祖先から寒冷期の第4紀に北米と東アジアに分布が分かれたと聞きブナやユリノキと同様と納得した。

（友の会 芥川ひとみ）



総苞片に形や色が、こんなにたくさんあることにびっくりです。



講座の風景

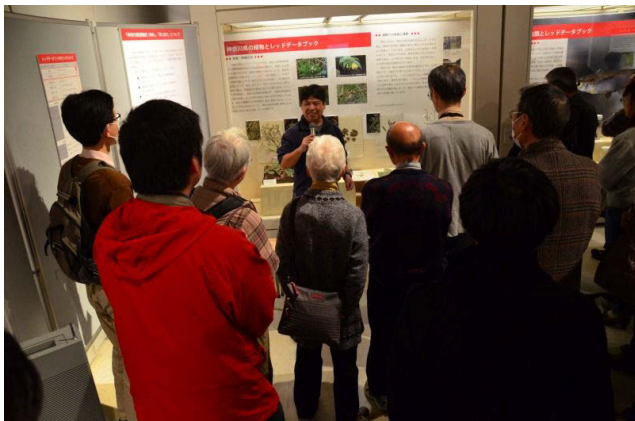
サロン・ド・小田原

第127回サロン・ド・小田原「希少昆虫の保全 現場最前線ーレッドデータが救うものー」

2018年1月20日(土)／博物館講義室及び企画展示場／／40名／須田真一氏（中央大学保全生態研究室研究員）

予定話題提供者の荻部治紀学芸員が急に出席不能となった。担当博物館職員の対応で、荻部さんとの関係もある須田真一氏に急遽お話をさせていただくこととなったそうだ。

時間調整もあって、始めに30分ほど、参加者が企画展『レッドデータの生物』を自由に見た。やがて須田氏が現れ、説明を聴きながら再び企画展を見て回った。展示の前ではその一点一点について丁寧に説明をしていただいた。



企画展会場で説明中の須田真一氏

講義室に戻り、そこでは生物保全についての質疑応答がなされた。今回は若い人の参加が目立った。また、テーマを見てわざわざ遠隔地から見えたとと思われる熱心な人たちも見受けられた。

須田氏には、絶滅危惧種の保全についてはどのような対策が講じられているのかといったと言った質問が矢継ぎ早にされた。

ほぼ一人の人の質問だけで、時間が来てしまい、終わろうとしたので、これでは折角、期待して来られた人に申し訳ないと、時間を延長して、他の人からも質問、意見を受けることになった。

その後、3～4人の人から、保全をどう進めるかなどの真剣な発言が交わされた。これに須田氏は丁寧に対応してくれた。

大幅に時間は延長したものの、参加者の意見が取り上げられたことはよかったと感じた。会が閉じた後も、須田氏を取り囲んで、更に熱心に話が続いた今回のサロン・ド・小田原となった。(友の会 飯島俊幸)



質疑応答風景

行事案内

◆ 植物観察会

『富士山5合目 お中道から奥庭を歩く』

いよいよ夏の到来！

下界の蒸し暑さを忘れ、標高約2300mの富士山5合目で、高山帯、亜高山帯の植物を楽しみましょう。原生林内ではハクサンシャクナゲが咲き、足元にはコケモモの小さな花が見られる頃です。

期 日：7月25日(水) 雨天中止

場 所：山梨県／富士山お中道～お庭・奥庭周回

集 合：小田原駅西口ロータリー 8:00

解 散：同上 17:30頃

講 師：勝山輝男学芸員

対 象：大人25名（応募者多数の場合抽選）

参加費：当日のスタッフを含めた総参加者数により
6,600円/人 か 7,600円(当日集金)
(貸し切りバス代、保険料など。また内600円は講師交通費・資料代他となります)

締切り：7月11日(水) 必着

企画主催：友の会植物グループ

旅行主催：ネイチャートレイル(第2種旅行業者)

連絡先：田畑

浜岡

*詳細は返信はがきにてお知らせします。

◆『パソコンで鉱物を鑑定しよう』

講師が作成したプログラム（デジタル鉱物図鑑）の検索機能を使って鉱物の鑑定練習を行います。

デジタル鉱物図鑑の検索機能を簡単に説明し、その検索条件である条痕色・モース硬度・比重測定の方法を簡単に説明します。後は、用意した練習用鉱物を使って鑑定します。

一般的な肉眼鑑定で使用する外観色・光沢・劈開よりも正確に鑑定できる事を体験していただきます。

＊詳細は別途後報いたします。



日 時：8月5日（日）10：00 ～ 15：00

場 所：博物館3階実習実験室

講 師：野呂輝雄（鉱物結晶図鑑 著者）

対 象：小学生以上 20名／オープン（抽選）

小学生の場合は保護者同伴とします。

その他：鑑定で使用するパソコンは数台用意しますが、パソコン持参の方には、デジタル鉱物図鑑を無料でインストールします。

参加費：友の会会員、中学生以下 500円／人

高校生以上の友の会非会員 700円／人

（保険代、資料代等）

締切り：7月20日（金）必着

連絡先：野呂

◆ 子ども自然科学ひろば

「箱根火山の火山灰を調べてみよう」

箱根火山が噴出した火山灰（テフラと呼ぶ）の中には色々な造岩鉱物（岩石を造っている鉱物）が含まれています。この火山灰を洗って中の鉱物を顕微鏡で観察します。

日 時：8月10日（金）

午前10：00～12：00 午後13：00～15：00

場 所：生命の星・地球博物館3階実習実験室

講 師：笠間 友博 学芸員

対 象：子どもとその保護者／オープン

参加費：無料

申込み：事前申込み無し（上記場所で受付）

連絡先：中村（良）光

◆「地話懇話会 ～地学関連分野の話題を皆で気軽に話し合う～」…第4水曜日／開催月【8月の話題】

日 時：8月22日（水）15：00～16：30

場 所：生命の星・地球博物館 講義室

話 題：『 Gondwana大陸の誕生と分裂：

南アフリカとナミビアの地質 』

話題提供者：有馬 眞 氏（横浜国大名誉教授）

＊状況により話題（講座内容）等の変更が有ります。

対 象：友の会々員（原則）の当日来館者

参加費：無料（原則）…但し内容により有料

（保険代、資料代等：当日徴収）

申込み：不要

連絡先：中村 良

◆「日本地質学発祥の地・埼玉県長瀬の

地形・地質観察会」

期 日：9月1日（土）…雨天決行

場 所：埼玉県長瀬町周辺

集 合：小田急線本厚木駅東口（新宿寄り）改札出口

7：30…集合後貸切りバスに乗車

解 散：小田急線本厚木駅 19：00頃

講 師：河田早苗 氏（長瀬町観光協会ガイド）、

山下浩之 氏（生命の星・地球博物館学芸員）

対 象：大人43名（応募者多数の時は抽選）

参加費：6、500円／人（バス代、資料代、入館料等）

…参加人数等により多少の変更が有ります。

連絡先：中村良

その他詳細は同封の行事チラシを参照して下さい。

◆“よろずスタジオ”

対 象：子ども（当日の来館者）

申込み：不要／オープン

参加費：無料

「これもキノコの仲間？」

日 時：9月16日（日）13：00 ～ 15：00

場 所：博物館1階講義室（東側）



アオカビ

食べるキノコは知っているけど、野山にあるキノコは知らないあなた。びっくりするキノコの仲間を観察してみよう。

どこにどんなものが見つかるかな。

◆ 昆虫観察会「見つけよう秋の虫いろいろ」

大人の昆虫観察会第2弾です。

春に逢った虫たちとはどう違うのでしょうか。

鳴く虫はどうでしょう。ハムシたちは？トンボたちは？チョウたちは？

今回はバッタ目の虫たちも期待できそうです。

秋の一日いろいろな虫たちを探してみましょう。

期 日：9月26日（水）雨天中止

場 所：足柄上郡中井町

集 合：神奈中バス比奈窪バス停 10：20

小田急秦野駅南口2番バス停から神奈中バス比奈窪行き終点下車

JR二宮駅南口1番バス停から神奈中バス比奈窪行き終点下車

解 散：比奈窪バス停 14：30頃

講 師：渡辺恭平学芸員

対 象：大人 20名（多数抽選）

参加費：400円／人

締切り：9月5日（木）必着

担 当：友の会 里山むしてくクラブ

連絡先：金子

*詳細は返信はがきでお知らせします。

◆ 植物観察会 『岩戸山の秋草を楽しむ』

可憐なアケボノシュスランが左右に咲く沢沿いの道、イズコゴメグサ、ソナレマツムシソウ、ウメバチソウなどが咲く草原。

少し長いですが、変化に富んだ楽しいコースです。

日 時：10月5日（金）9：00～15：30 雨天中止

場 所：岩戸山山麓（静岡県熱海市）

集 合：JR線湯河原駅 改札口 9：00

（タクシーで日金山登山口まで行きます）

解 散：JR線熱海駅 16：00頃

（タクシーで土沢十字路から熱海駅へ）

講 師：勝山輝男学芸員

対 象：大人 25名（応募者多数の場合抽選）

参加費：1400円／人

（保険・資料等・往復のタクシー代含む）

締切り：9月20日（木）必着

担当：友の会植物グループ

連絡先：佐々木あ

金 子 光

*詳細は返信はがきにてお知らせします。

友の会主催行事の参加申し込みについて

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。FAXや電子メールでの受付は原則出来ませんので、ご注意ください（講座によっては可）。ご不明な点は友の会事務局へお問い合わせください。

■必要事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢（学年）／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項

注意！

■参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。

■オープンの行事は会員以外の方も参加できます（参加者が会員とは異なる場合があります）。

■小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

■チラシの発行されない行事もありますので、直接＜連絡先＞へお問い合わせください。

■持ち物など詳細は返信はがきに記載されます。

ー広報部よりー

今回より通信の編集作業は外注から広報担当者が行うこととなりました。編集作業や新規企画提案など通信作成のお手伝いをしていただけると非常に助かります。お手伝いいただける方は、下記メールアドレスにご連絡ください。よろしくお願いします！

次号は、2018年9月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会

Vol.22、No.1、通巻100号 2018.6.15 発行

編集：友の会広報部

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田4-9-9

TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846

E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp

Blog：<http://blog.livedoor.jp/kpmtomo>

Twitter：@kpmtomo